

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第13号

2009年12月1日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9 - 303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正

電話 & F a x 044-988-8065



2009年7月4日 夏の宴「勉強会場で」

「^{おきなわ} ^ご ^{はな} ^{かい} ^ち ^た ^{けーん} ^{あち} ^{びんち} ^{ょー} ^い ^{しな} ^{がわ} ^{あー} ^{さき}
沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・うんたしー^ひ ^が ^{すみ} ^こ ^う ^し ^し ^{ょー} ^し ^{ょー} ^が ^ん ^り ^{ゆー} ^し ^ょ ^だ ^い ^い ^え ^も ^と 比嘉澄子御師匠（松含流初代家元）----崎浜和子
- ・ごーやーぬ^み ^{じら} ^は ^{なし} 珍しー話-----船津好明
- ・「^し ^{まい} ^{さー} ^く ^る」ぬ^で ^き 出来やびたん-----國吉（眞）
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

沖縄語教育支援文庫 <http://www.wwq.jp/q/>

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

うんたしー^{ひ が す み こ う し し ょー し ょー が ん り ゅー し ょ だ い い え も と}比嘉澄子御師匠(松 含 流 初代家元)

崎浜和子(品川区)

し ょー わ く に ん わ め むー^{く と}
昭和九年、我々が六ちそーいにぬ事やいびーん。

めー^{う い 象ー} 何がなんてる御祝ぬ座かい、^{う ど む} んめー御供っし行じ
やる時ぬ事やいびーたん。

うぬ座^{じ ゃー}をて、^{めーあなぐ} 前女ぬ踊とーし見ち、^{けー} 家かい帰いに

し ょー い ん づ い ゆ^{ち ど い な ら}
松 蔭会んかい寄しりやびたん。うんにーから、踊習
ゆんち意地ぬ出じやびたん。

し ょー い ん づ え は ね^{は た み ち どー}
松 蔭会ー、華ーちょーる「端道通い」んて^{ゆー} 言る通

いんかい^い 出じて、^{ゆ く み ち} あんしから、横道んかい入っち、^{し じ} 静
かな所^{と くる}んかいあいびーたん。^{ち ゅ ぐ} んまーっ人ぬ暮らちょ
ーる家ぬ並どーいびーたん。

じん ぶん のー じ か ふ だ^{あ ら か ち ぐー}
玄関ぬ名字書ちえーる札なかい、「新垣寓」んち書ち
か
掛きらっとーいびーたん。

ぐー^{ゆー} 「寓んて言しえー、^{ぬー} 何やがやー。^{のー じ} 名字どやがやー。」
んて、^{かん げ} ちゃー考ーいがちー、^{にーけー} 二階んかい上がとーい
びーたん。^{ち ど い} 踊ぬ稽古する場所ー、^{ふ る} 広さんあい、^{やー} 家ぬ
くびー杯^{い っ べー が ん い} 鏡入ってーいびーたん。

よし こ し ん しー す み こ し ん しー あ な ぐ
芳子先生や、澄子先生ぬ女しーじゃやみしえーびー
たん。^{よし こ し ん しー} 芳子先生や、^{かが の} 鏡ーくさー成ち、^な 上ぬ座^{あー}をて、
さん し ん づ い^{やー}
三線弾ちょーみしえーびーたん。

すみ こ し ん しー^{し ら ぐ ん}
澄子先生や、からじえー、平組そーいびーたしが、^{じ ゃー} 座
ぬ入口^{い り ぐ ち}をて、^ふ さんまんちしみそーち、^{わ っ た ー} 我達^{ちー ぐ}が稽古す
し、^{ふ じ ゅ} 動ちんさん^{ぐ と}如しんじん^{んー}と見ちょーみしえーびー
たん。

た い し ん しー たー し が た な ま^み
二人ぬ先生達姿ー、^み 今やてん見ーゆんねーさびーん。

すみ こ し ん しー わ か^{じ ぶ の}
澄子先生や、若さる時分ー、「我んねー、^わ ちゃー、

が ら さー^{ぐ と} 烏ぬ如っし^{く る む ん ち き} 黒紋付びけーん^ちど着ちょーくと、^{は ね} 華ー

ちょーるちん着ち、^{き ど} 踊い^ぶ 欲さん。」て、^{し ょー が ん し ん しー} 松 含先生ん

かい、^{く と} うんぬきゆる事ん^{く と} あたんてぬ事やいびーん。

やいびーしが、^{し ょー が ん し ん しー} 松 含先生や、「男^{あ き が ち ど い} 踊や、^い ばーがど

じ ょー じ^い
上手やんどーやー。」んて、言ちょーみしえーたんて

ぬ事やいびーん。

すみ こ し ん しー は と ま ぶ し めー は ま ぶ し^{あ き が ち ど い}
澄子先生ぬ鳩間節、^{い ち ゅ} 前ぬ浜節んでーぬ男 踊や、勢

いんあい、^{ぶ てーい っ べー ち ど} 舞台一杯踊とーみしえーびーたくと、^{わ ら び} 童

ながら肝打たて、^{ち ゅ う} 見ー惚りそーいびーたん。

よし こ し ん しー^{あ と}
芳子先生がまーしみそーちやる後、澄子先生や、

あ な ぐ う や が な しー^く
女ぬ親か那志んかい、「ばーや、^{さ ち ち ど い} 此りから先^{み ち} 踊ぬ道

と
取ゆみ。あねーあらんだれー、^{ふ か} じょーしちゃーやか他

ねー無ーんどー。」んて、^い 言らったんてぬ事やいびー

ん。^{すみ こ し ん しー} あんさーに澄子先生や、「此れー、^く 大事^{でー じ} な事やん

て^{う む} 思て、^{め ち か じ} 命限り^{さん し ん な ら} 三線習たんどー。」んて、^い 言ちょーみ
しえーびーたん。

し ょー わ じ ゅー ぐ に ん く る^{く と う び ん}
昭和十五年ぬ頃ぬ事思出じゃしーねー、^{すみ} 「澄ち

ゃん姉さん。」て^い 言ち、^{えー じ} 合図そーいびーたん。なー、

し ん しー しー と 糸ー だ^{ぬーふ だ}
先生と生徒ぬ間ー、何隔てん無ーやびらんたん。う

すみ こ し ん しー^{い っ べー ち ゅ い り}
ぬ澄子先生や、一杯肝煎っし^く 呉みそーち、^{な ら} 習ーち御

たび
賜みしえーびーたん。

し ょー が ん せ ん せー つ い ぜ ん げー のー た い か い^わ
「松 含先生追善芸能大会」ぬプログラムなかい、我

のー じ み ぶ^{ち わ}
ん名字見ー出じゃちやる際に、^{あ し} 遊びがちー^{な ら} 習とーた

ちも 肝一あらんてーさやーんて思やびたん。

すみ こしんしー しーと ちゃー ぶてー へん 澄子先生や、生徒ぬ 達 まぎ舞台んかい 出じゃすんち、

いっぺー 一杯うみはまみそーち、 なら ち 習ーち御賜みそーちえーさ

やーんて思とーいびーん。

く 此りから しょーいんふいどーちゆい 見ー考ーすんて肝

が 掛けー、うぬ頃から肝んかい、 しかつと 極みとーい

びーてーんでーやーんて思とーいびーん。

わ 我んが うちなー けー ちわ かんしばなし 沖縄かい 帰ゆる際ねー、 昔 話 しみそーち

やい、 踊 習ーする事んでー、 だんだんぬてーふしみ しえーびーたん。

すみ こしんしー ちど が なしー どち た わし 澄子先生夫加那志んまじゅん、 時ぬ経ちゅしん忘り

て、 物言ー笑ーつし呉みそーちゃしえー、 一杯 ぬー

りきさるー一時やいびーたん。

すみ こしんしー う はなしが ぬー たぬ 澄子先生御話 拝むしえー、 何やかん楽しみそーいび

ーたしが、 なー、 此ぬ世 失 みそーち、 一杯 残念な事

やんて思とーいびーん。

すみ こしんしー じゅーはち とし しょーがんしんしーじーぬー 澄子先生や、 いきら 十 八ぬ歳に 松 含先生芸能

ぬ 趣 継じょーみしえーびーん。

すみ こしんしー いちでーみー むーどどくる 澄子先生や、 一代目ぬ 元 所 やいびーしが、 此りか

らー、 二代目ぬ 元 所 ぬ中心んかい 立っち、「師範・

きょーし 教師」ぬ先生達が肝ぬゆちゃーて行ちゅし、 此ぬ芸

能ぬ 趣 継じ行かりーる如、 肝ぬ底から祈ゆしうん

ぬきやびーん。



ごーやーぬ 珍しー 話

船津好明 (小平市)

ごーやー 噛むる 話 ーあいびらん。 ちる みじと 蔓から水取
る 話 やいびーん。

やまと 大和健てーかーま 昔 から、 ごーやーやあらん、 な

ーべーらー 作 逸、 成いぬ終わたる頃、 根元んかい 近

さる 蔓切っち、 根元ぬ 蔓瓶ぬ 口んかい 入りーねー、 蔓

ぬ先から水ぬ出じ 逸、 瓶ぬ 中 ンかい 溜またるむんや

いびーん。 くぬ 水 ー、 大和健てー「へちま水」ん 謹言

ち、 ური 女 ぬ面んかい 擦ーねー、 清ら 影 成ゆん 謹言

ったるむんやいびーん。 へちま水ー、 飲めー飲まりや

びーしが、 旨さるむのーあいびらん。 薬 そーたる

話 ーあいびーん。 今年ー我んねーーちぬ根から 2

リットル取やびたん。

く くりどいぬ 考ーつし、 ごーやーぬ 成いぬ終わたる

頃、 うぬ 蔓ぬ 根元切っち、 根元ぬ 蔓瓶ぬ 口んかい 入

りーねー、 蔓から水ぬ出じ 逸、 瓶ぬ 中 ンかい 溜まや

びーん。 色ぬ無ーん、 清ら 水ぬ 如 錚見ーやびーる。 味

ー 苦 こー無ーやびらん。 面んかい 塗いねー 清ら 影

成いがすら、 またくぬ 水調びーねー、 薬 成いがすら

わ 分かやびらん。 今年ー我ー庭 健逸ーちぬ根から 500

しーしー た c c 溜まやびたん。 物煮ゆる場所に 使やびたん。



「^{しまい}姉妹サークル」^{ぐき}ぬ出来やびたん

國吉（眞）（川崎市）

「^{おきなわ}沖縄語を^{はな}話す会」や、^{なま}今から^{にじゅうにんあま}二十余年い前に
^{ぐき}出来やびたん。^{ちち}月に^{たけん}二回^{ぐと}ふっちーんかぎらん如、^{うち}沖
^{なぐち}縄口ぬ^{びんちよー}勉強^ちっし来やーびたん。

「^{うちなぐちえ}沖縄口ー、^{しでー}次第に^{ちか}使ーん成て、^な分からん^な成て来よ
ーいびーたくと、^{じふん}是非皆さーに^{びんちよー}勉強^{ふる}っし広みて^い行か
な。」^いんて^{とーちよー}言ち、^{ちゆく}東京を^{ふい}て作たる会やいびーん。

^{くとしえ}今年ー、^{いっぺー}一杯いー年がやいびーら、^{わったふい}我達会と^う御まじ
^{たげ}ゆーん互ーに^{ちむ}肝ぬゆちゃーて、^{びんちよーふい}勉強^{たー}会ぬ^{ぐき}二ち出来や
びたん。

^{ぐー}一ちえー、^{とーちよー}東京ぬ^{こまえし}狛江市んかい「^き喜多見サークル」
^{ぐき}ぬ出来て、^{しむちち}霜月ぬ^{くにち}九日から^{びんちよーはじ}勉強^{はじ}始みやびたん。

^{ぐー}うりから、^ななー一ちえー、^な那覇ぬおもろまちなかい「^な那
^は覇サークル」^{ぐき}ぬ出来て、^{しむちち}霜月ぬ^{じゅーさんにち}十三日から^{びんちよーはじ}勉強^{はじ}始
みやびたん。

^{びんちよーふい}じめ勉強^{うちなぐち}会やてん、^{なら}沖縄口ぬ^{やっ}習い^{どくる}易さる所やいび
ーくと、^{んな}皆さーに^{びんちよーふい}勉強^た会盛い立てて、^{うちなぐちふる}沖縄口広み
て^い行ちやびらんち思とーいびーん。

^き喜多見サークルー、^{をどい}踊ぬ^{しんしーたー}先生達^{ななじぬ}が中心んかい^た立っち

^{ちゆく}サークル作て、^{しんぶんち}やーんぬ^{とーちよー}四月ねー、^{こくりつげき}東京ぬ国立劇
^{じょー}場をて、^{たまぐしくちよーくなくみ}玉城朝薫組^{をどい}踊^{しゅーしんかにいり}五番「^{くすー}執心鐘入」御衆

^{よー}様んかい^{うみか}御目掛き^{うむむち}ゆんでる趣んあいびーん。

また^な又、^な那覇サークルー、^{ろーどく}うちなぐちさーに「朗読」

^{うむむちむ}する趣^{びんちよーはじ}持ち、^{あどあと}勉強^{うちな}始みやびたん。後々ー、^{うちな}沖縄

^{ぐち}口さーに^なナレーター^ま成いねー、^{うむ}益しやしがんで^{うむ}思とー
いびーん。

^わ我んねー、^{しむちち}霜月ぬ^{じゅーさんにち}十三日ねー、「^な那覇サークル」

^{ぐすーよー}ぬ御衆様んかい^{はじ}初みて^{あーちえーちが}行会^{びんちよー}拝て、^{うむ}勉強^{うむ}さびたん。

^{うちなぐち}沖縄口ぬ^{ぐー}声ぬ^{かた}出じゃし^{くー}方ど^あ声上^さぎたい^さ下^さぎたいすし

^{やまどぐち}えー、^か大和口とー^か変わとーいびーしえーやー。あんす

^{ろーどく}くと、「朗読」^{はじ}始みーる^{めー}前に、^{いっぺーてーしち}うれー、^{ぐと}一杯大切な事

やいびーくと、^{いくけーぬ}幾回^{ちーく}ん稽古さびたん。

会報に出てきた語句の説明

（沖縄語辞典、広辞苑による）

・うんたしー^{ひがすみこうししよー}比嘉澄子御師匠：敬愛すべき立派な比
嘉澄子先生。

・^{ぬー}何^{ういあー}がなんてる御祝：ある御祝。

・^{んめー}んめー：おばあさん。祖母。

・^て～をて：～で。

・^{めーあなく}前女：淑女。御婦人。

・^ゆ寄しりやびたん：参った。参上した。

・うんにーから：その時から。

・^{んまー}んまー：そこは。そっちは。

・^{ちやー}ちやー：いつも。常に。

・^{～がちー}～がちー：～ながら。

・^{かんげ}考ーいがちー：考えながら。

・^{やー}家ぬくび：家の壁。

・^{あなく}女しーじゃ：年上の者。姉。

・^なくさー成ち：後ろにする。

・^{からじ}からじ：髪。

・^{しらぐん}平組：平組み。より糸三本を平たく編んだもの。

・^{ふる}ふるさまんちしみそーち：端座されて。

・^{しんじんど}しんじんど：しとやかにしているさま。

・^{なま}今やてん：今でも。

- ・～びけーん：ばかり。
- ・^{はね}華ー^ちちょーるちん着ち：華やかな着物を着けて。
- ・うんぬきゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・やいびーしが：そうであります。
- ・やーがど：君だからこそ。
- ・～んでー：など。
- ・^{ちむう}肝打たりゆん：心を打たれる。感動する。
- ・^み見ー^ぶ惚り：惚れ惚れと見ること。
- ・まーすん：死ぬ。なくなる。
- ・^{がなしー}～加那志：様。
- ・あねーあらんだれー：そうでなければ。
- ・じょーしちゃー：下女。台所女中。
- ・～やか：より。
- ・^{ちむいり}肝煎：好意。親切。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・^み見ー^{かんげ}考ー：世話。
- ・^{ちむが}肝掛き：心掛け。
- ・しかつど：しっかりと。
- ・だんだんぬてー^ふめ：大層の冗談。
- ・まじゆん：一緒(に)、共(に)。
- ・^{むぬい}物言ー^{われ}笑ー：談笑。
- ・^あーりきさん：面白い。楽しい。
- ・^う御話^{はなし}拜むん：(目上の人の)お話を聴く。
- ・^{ぬー}何やかん：何よりも。
- ・^{じゅーはち}いきら^{とし}十八ぬ歳：わずか十八の歳。
- ・^{ちむ}肝ぬゆちゃーゆん：心が合う。気が合う。
- ・^{んかし}かーま昔：遠い昔。
- ・なーべーらー：へちま。
- ・^な成い：実。果実。
- ・^{かんげ}いぬ考ー：同じ考え。
- ・^ふっちー：一日。また、一日中。
- ・かぎゆん：欠ける。欠席して欠ける。
- ・^{ぐど}っちーんかぎらん如：一日も欠けないように。

- ・じめ：どの。
- ・^{びんちよーらい}じめ勉強会やてん：どの勉強会でも。
- ・^{んな}皆さーに：皆で。
- ・^{いっぺー}一杯^{とし}い一年：非常に良い年。
- ・^{なかにめ}中心^たんかい立っち：中心に立って。
- ・やーん：来年。
- ・^{うみか}御目掛きゆん：お目に掛ける。御覧に入れる。
- ・^{うむち}趣：用向き。目的。

*本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

事務局から

13号をお届けいたします。

本年も東京都内や、沖縄において活動してまいりました。詳しくは年間の活動実績にまとめて、忘年会の席で、ご報告したいと思います。

本年は、嬉しいことに私たちと姉妹関係にある勉強会のサークルが、二ヶ所に出来たことです。

(株)M・A・Pの高山正樹さんと宇夫方路さんのお力添えで、二つの勉強会が出来ました。

新しく出来た二つのサークルは、私どもの会と連携を取りながら情報交換をし、沖縄語による対話などを通して素養を深め、親睦を図っていくこととなります。来年は、さらに教材開発を進め、沖縄語の普及に邁進して行きましょう。

この会報は、沖縄語にご関心があれば、どなたでも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

多くの方々に私どもの活動を知っていただくため、ホームページの内容を絶えず更新しております。また沖縄語教育支援文庫は、うちなーぐち初心者用のテキストなど、いろいろな教材が入っております。パソコンをお持ちの方は、どうぞご覧になって必要なものはダウンロードしてお使いください。 國吉(眞)

